

# 陸前高田市矢作地区民生児童委員協議会

(平成 27 年 1 月)

## 1 はじめに

陸前高田市矢作町は、気仙川の河口から約 7km 上流の山間に位置する林業・農業の盛んな町です。民生委員・児童委員 10 名（うち主任児童委員 2 名）で担当しています。

東日本大震災では、海に近い下矢作地区で 35 世帯が全半壊等の被害を受け、委員 1 名と高齢者夫婦が犠牲となりました。

## 2 発災時の地区の様子

発災後、ただちにコミュニティセンターに避難所を開設しました。まず、避難所のストーブを集めて暖をとり、地区の住民の協力を得て毛布や食料を集め、避難者に提供しました。

当初、避難者は 60 名程ですむと思っていきましたが、市の中心部は壊滅的な被害を受けており、ずぶ濡れの人、けが人や遺体を伴った人、海辺から山越えて 1 時間以上かけて歩いてきた人など他地区からも大勢つめかけ、避難者数は夜通しで増えていき、テントで待機していた委員や行政職員は一睡もできませんでした。翌日には、400 名程の避難者数になり、急きょ避難所を増設して対応しました。

## 3 現在の地区の様子

一部で完成した災害公営住宅に転居する世帯や、2 年後に予定されている高台への集団移転を待ちきれず自宅を新築する世帯も出ており、応急仮設住宅には空室も目立ち始めています。

一方で、生活再建が進まない世帯も多く、この先も長期間にわたり応急仮設住宅での生活が続くことが予想され、発災から 4 年目を迎えて、高齢者にはかなりの疲労が感じられます。

## 4 活動紹介等

### (1) 委員活動

当地区は古くから住んでいる世帯が多く、お互い良く知っていて安心できる反面、人の目を気にして民生委員の世話にはなりたくないという相談をためらう住民もおり、さまざまな制度やサービスの活用を勧めにくいところがあると感じています。

当地区には 520 戸程の応急仮設住宅が建設されていますが、毎月の定例会には市社協の生活支援相談員も出席し、応急仮設住宅の住民の様子等について情報交換し、連携して見守り支援活動を行なっています。

応急仮設住宅の入居者はほとんどが当地区に隣接する気仙町の住民ですが、これまでの活動を通じて、ようやくどんな世帯なのか把握できつつあります。この先、災害公営住宅への入居や高台への集団移転で気仙町に戻ることを希望している住民が多いため、気仙地区の委員も来訪し、見守り支援活動を行なっています。

### (2) 子どもを取り巻く環境

子どもたちが通う矢作小学校の校庭には応急仮設住宅が建設されたため、運動会等は 6Km 離れた廃校となった小学校の校庭を利用するなどしています。子どもたちは、体をつくる一番大切な時期に運動の場を奪われ、今後心身の発達にどんな影響が出てくるのか心配しています。

## 5 おわりに

震災後にいただいた全国の民生委員・児童委員の皆様からのご支援に感謝申し上げます。ありがとうございました。